

三郷市の家庭教育支援・ 主権者教育について

令和元年7月26日（金）

埼玉県三郷市教育委員会

埼玉県三郷市について 三郷市基礎情報



- 面積 **30.22**km² • 人口 **141,765**人
- 世帯数 **64,102**世帯



三郷市はギリシャ共和国
のホストタウンです



三郷市の家庭教育支援

「親の学習事業」を中心に

埼玉県三郷市 家庭教育支援について



- 生涯学習課 ※公民館、PTA所管
 - ・放課後子ども教室
児童生徒を対象に、放課後、地区センターや学校の空き教室で、ボランティアの見守りのもと、活動を行う場を提供する。
 - ・子ども大学
大学や企業と連携して親子を対象にしたイベントの開催。学校外での学びの場を提供する。
- 青少年課
 - ・親の学習事業
親を対象に開講する。親同士の子育てに関する悩みの共有などを通し、気づきを促す。
- スポーツ推進課
 - ・ファミリーバスハイク
三郷市青少年育成市民会議と連携して、親子が一緒に参加するハイキング等を主催。
- 日本一の読書のまち推進課
 - ・「子ども司書養成講座」で、地域の読書リーダーを育成。市内の各種イベントにおいて、子ども司書による親子への読み聞かせの場を設ける。
- 指導課（後ほど説明）



- ! ・各部署がそれぞれの観点から、様々な取組を実施。
- ・所掌に縛られることのない家庭教育支援を推進。



埼玉県三郷市の家庭教育支援の取組（「親の学習」事業）



目的

- ① 親同士の話合いの中から、「我が家に合った子育て」について保護者自らの気づきを促す。
- ② 親同士の話合いを通して、親同士の絆をつなぎ、相談し合える関係を築く。
- ③ 中高生が将来、大人になった時のことを考え、「親になること」や「命の大切さ」を学ぶ。

事業概要

- 親の学習は、参加者が小グループを作り意見交換やロールプレイを行う「参加型学習」形式で実施する。
- 「家庭教育アドバイザー」という県の養成研修を修了し、人材登録をした者が「ファシリテーター（学習支援者）」として、保護者や生徒間の話し合いが活発になるよう補助する。
(平成31年4月1日現在：三郷市登録者数27人)
- 話し合いの中で「多様な子育ての方法や考え方」を知り、「我が家に合った子育ての方法」を保護者に考えてもらうとともに、その気づきを促す。
- 子供と親の対話の場を作る。また、体験学習等を通して授業外での学びの場を設ける。

講座の種類

乳幼児の保護者
対象講座
子育てについての
悩みを共有する

小・中・高校生の
保護者対象講座
「親同士の絆」を
形成する

小学校親子合同講座
親が子の立場、
子が親の立場で
考える

中学生・高校生
対象講座
親になるための
学習 など

成果

- ◇ 実施回数、受講者が増加しており、学校にも地域にも根付いた取組となった。
- ◇ 年々、家庭教育アドバイザーの担い手が増えている。学校・家庭・地域が一体となって教育に取り組む土壌が構築された。



展開方策

- ① 体験的な学習の充実
- ② 乳幼児の保護者対象講座、保護者対象講座の確保
- ③ 1講座45分間以上の講座数確保
- ④ 家庭教育アドバイザーの増員



埼玉県三郷市 「親の学習」 事業 基本的な流れ・講座例



STEP1

学校等が教育委員会へ講座開設の要望、内容の方向性の希望を伝える

年2回の三郷市一斉学校公開日や、懇談会、就学時健康診断等に併せて開講する予定を立てます。



STEP2

教育委員会は講座内容を家庭教育アドバイザーに連絡、対応者を募集

プログラムモデル集を活用しながら、要望に応じてプログラムを作成します。



STEP3

学校、家庭教育アドバイザー、教育委員会合同で内容検討の打合せ

「困っていること」、「プログラムに工夫を加えたい点」などのヒアリングを行い、柔軟な対応となるよう努めます。



<主なプログラムのテーマ>

①乳幼児の保護者対象講座

育児とスマホ
ママ友作りと
子育て中のリフレッシュ
ほめられてのびる？
いやいや期について
など

②小・中・高校生の保護者対象講座

「いじめ」
～親にできること～
性的マイノリティと人権
社会のマナーやルールは
家庭から
など

③小学校親子合同講座

まずは自分で
インターネットの
危険について考えよう
中学校で青春しよう！
思春期ってなあに!？
など

④中学生・高校生対象講座

赤ちゃん抱っこ体験
家族ってなに？
命を感じよう
など



- 講座のねらい ●
- ・ 親同士のコミュニケーションの場の形成
- ・ 「子育ての悩みの共有」により子育て世代の孤立を防ぐ

- 乳幼児の保護者を対象とした講座。主に教育委員会が主催。
- 月4回定例開催。加えて、幼稚園等からの要望に応じて随時開講。
- 市内商業施設（ららぽーと新三郷、イトーヨーカ堂）、公共施設（市民センター）や、幼稚園等で開講している。

プログラム 例 1

ママ友作り と子育て中の リフレッシュ

1. あいさつ
2. 音楽活動 月さんぽ
3. 今月の歌 月かわいい
かくれんぼ
4. ベビーマッサージ
5. 読み聞かせ
6. ストレッチ
7. 親同士の話し合い
「今年度の感想」
8. 終わりの歌 月小さな
世界

プログラム 例 2

我が家の Happy 子育て

1. 自己紹介
2. 親同士の話し合い
「我が家の子育て」
あんなこと、こんな
ことを話してみま
しょう
3. 親同士の交流会
「将来…できたら
いいな、あんなこと、
こんなこと」

我が家のHappy子育てでは、「大人の関わり方を変えると子どもが変わる」「過干渉にならない子育てをしましょう」といった点をファシリテーターとして話し合いに盛り込みました。





●講座のねらい●

- ・「親同士の絆」を築き、相談し合える環境づくりを推進する。
- ・保護者が子供の抱える問題やその解決策を考えることにより、家庭教育の質の向上を目指す。

- 保護者だけが参加する講座。子供の前では話しにくい内容の悩みや問題について重点的に相談し合う。
- 主に放課後や学級懇談会時に開講する。また、就学時健康診断や入学説明会でも開講。
- 小学校入学前の就学時健康診断時の講座はほぼすべての保護者が参加するが、基本的には自由参加形式で実施。

プログラム 例 1

いじめ ～親にできる こと～

1. 自己紹介
2. 「家庭用いじめ発見チェックシート」ワークシート記入
3. どうして「いじめ」が起きるのか？意見交換・発表
4. ”「いじめ」をしない子、止める子に育てるためには”をテーマに意見交換・発表
5. まとめ

プログラム 例 2

社会のマナー やルールは 家庭から

1. アイスブレイク
2. 子供のマナーの低下について意見交換
3. 我が子のマナーチェックワークシート記入
4. “マナーやルールが身に付く家庭環境を作るために”をテーマに意見交換・発表
5. まとめ

ファシリテーターは、子供のマナーの低下について意見交換をする際に、家庭教育が大きな役割を担っていることを補足するなど、講座が親の学びの場となるよう支援します。





● 講座のねらい ●

- ・ 親が子の立場、子が親の立場で考え、相互理解を促す
- ・ 子供と大人の交流の場となり、地域力の向上に繋がる

- 親子と一緒にテーマについて考える。子供の抱える問題等を親子で話し合うきっかけ作りの場となっている。
- 「親の学習」事業実施件数の内、最も多くの割合を占める。
- 主に6月、10月に行われる三郷市一斉学校公開に併せて開講する。

プログラム 例 1

まずは自分で

1. 導入
2. ワークシート記入
3. 児童：児童同士で「自分で考えて行動すること」についてグループワーク
保護者：子供の自立を促すためにどうするか意見交換
4. 全体発表、まとめ

プログラム 例 2

インターネットの危険について考えよう

1. 導入
2. DVD視聴
児童：インターネットの危険についてグループワーク
保護者：各家庭で起きたトラブルや防止策について意見交換
3. これからどんなことに気を付けたら良いか意見交換・発表
4. まとめ

多くの講座では、親と子供がそれぞれのグループに分かれ、親は親同士、子供は子供同士で意見交換する場面を設けます。そのため、親子合同講座では子供が学ぶだけでなく、親の気づきも促すことができます。





●講座のねらい●

- ・ 人権や現代社会の多様性を学習し、大人になる自立心を養う
- ・ 育児不安や虐待の予防に結びつける

- 中学校・高等学校において総合的な学習の時間等の授業の中で実施する。
- 学校からの要請に応じて随時開講する。
- 赤ちゃん抱っこ体験は、乳幼児の保護者対象講座や広報誌、ホームページ等で保護者に協力を呼びかけている。

プログラム 例 1

家族って なに？

1. 自己紹介
2. 班作り
3. 「家族のスタイル」を考え、各班一人ずつ発表
4. 将来自分が持ちたい「家族」をイメージし、今からできることを考えてもらう
数名発表
5. まとめ・振り返り

プログラム 例 2

命を感じよう

1. 導入
2. 赤ちゃん抱っこ体験
3. DVD視聴
4. 赤ちゃんの保護者から子育て体験談を聞く
質疑応答
5. まとめ
ワークシート記入

協力をした保護者の方々にも好評。「体験談を熱心に聞いてくれた」などの感想が寄せられた。

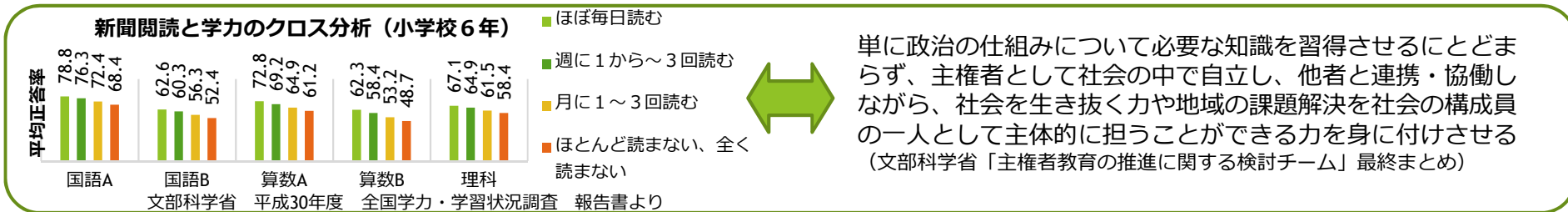
保護者にとっても、中学生・高校生と直接接することで、わが子の成長をイメージしやすくなる。



三郷市の主権者教育

NIE教育、模擬投票

埼玉県三郷市主権者教育① 「NIE教育の推進」



単に政治の仕組みについて必要な知識を習得させるにとどまらず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせる (文部科学省「主権者教育の推進に関する検討チーム」最終まとめ)

発達段階に応じた新聞活用法の取組

授業では、新聞をただ「教材」として扱うだけでなく、新聞を身近に接してもらうため、ゲームやクイズ形式の取組を実施。

- ・新聞ジグソーパズル
- ・登場する数の大きさ勝負
- ・国・県・市町村を探せ
- ・新聞記事しりとり
- ・見出し予想3択クイズ
- ・新聞のグラフ読み取り
- ・記事を読んで答えるクイズ 等



学校図書館の活用

三郷市は小学校・中学校共に学校司書配置率100%を達成している。学校司書は各学校の実情に応じた新聞を活用した学習支援の取組を実施。

- ・新聞切り抜きをテーマ毎にファイリングし、調べ学習をサポート
- ・子ども向け新聞のバックナンバーのコーナーを作成
- ・授業での活用について教員を支援



校内掲示や家庭学習の推進

小学校の夏休みの宿題や、授業の宿題として、新聞記事について親や友達と感想を交換し、自分の考えをまとめている。

自分の意見をまとめることに限らず、親や友達との交流をすることにより、傾聴の力や、他者の意見を尊重する力を養う。



切り抜き作品コンクールの実施

市内中学校では、東京新聞主催の「新聞切り抜き作品」をはじめ、新聞関係コンクールへの応募を奨励している。子供たちは作品の作成を通して生徒が自分自身でテーマを考えたり、調べたりすることにより、社会で起きているニュースについて自分なりの意見を持つようになる。



埼玉県三郷市主権者教育② 「デザート選挙」



目的

児童・生徒が選挙に触れる機会をつくり、

政治や選挙への関心を高め

将来の投票行動につなげる

市内小学6年生を対象に、給食に出すデザートをお約束に掲げた担当者の演説に児童が投票から開票まで、本番さながらの手順で給食のデザートを選ぶことを通じ、公正な選挙はどう実施されているか体験してもらう取組。

① 選挙に関する講座



はじめに、選挙管理委員会の職員から選挙の意義や概要などを説明。



② 候補者の演説



選挙演説に見立て、各デザート候補の説明。



③ 投票・開票



投票及び開票では、投票箱や記載台・開票時の計数機などの本物の機材を使用。生徒は、本番さながらの手順で投票及び開票を体験する。



「デザート選挙」で選ばれたデザートは、3学期の給食終了日に登場！

デザート選挙を通して…

- ・子供が体験学習を通して、選挙は自分の意見を実現するための行動であると学ぶことができる。
- ・デザート選挙で生徒が体験したことについて、家庭でのコミュニケーションを通して地域全体の選挙行動活性化へ繋げる。



3 今後の課題等

ご清聴ありがとうございました